





合同現地調査で訪れたクルネーガラ県の小学校。校長先生や大勢の児童の歓迎を受けた。ここでは、オイスカの「子供の森」計画により豊かな森が育っていた。(1月20日訪問)  
ワunia郊外の溜め池から水田地帯へと続く水路。国際協力銀行(JBIC)は、農村経済開発復興事業(PEACE)の第2フェーズでこの近くの溜め池を修復していく予定である。(1月21日訪問)



キリノッチ県ボンナガー村の仮の学校校舎で授業を受ける子供たち。2004年3月現在、ブリッジ エーシア ジャパン(BAJ)が村人に技術訓練を行いながら、新校舎を建設中。(1月22日訪問)  
キリノッチのBAJ職業訓練センターでは、明石日本政府代表や須田大使を始めとする外務省職員の訪問を受けた。(1月22日訪問)



国際協力機構(JICA)の事業で病棟や職員住居等の建設作業が進むキリノッチ県立病院。(1月22日訪問)  
ジャフナでは様々な現地NGOの人々から意見を聞くことができた。(1月23日、24日訪問)





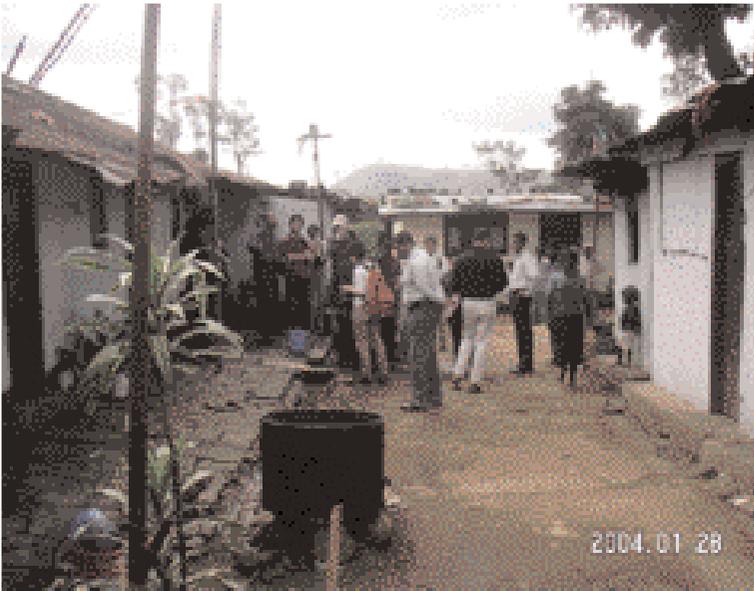
インドに近いマナー県の漁村。浜辺には日本製の船外機をつけたボートが数多く並んでいる。(1月24日訪問)

トリンコマレー県サダムナガール村の女性団体。この村では、シンハラ、タミル、ムスリムの3民族が共存している。(1月26日訪問)



ヌワラエリヤの紅茶農園管理者の豪華な住まい。植民地時代の名残が感じられる。(1月28日訪問)

トリンコマレー県サダムナガール村の民家。この村は内戦中に激しく破壊され、戦闘で夫を亡くした女性も多い。(1月26日訪問)



ヌワラエリヤの紅茶農園の中にあるインド系タミル人労働者が住む長屋。ケアがこうした労働者の支援を実施している。(1月28日訪問)

コロンボの日本大使館を訪問し、復興開発支援について意見交換を行った。(1月19日、29日訪問)

